

平成 30 年度

IT を活用した生産性向上の取組みを実施する企業の事例発表
及び意見交換会

1. 日 時 平成 30 年 10 月 12 日（金）14:00～16:30

2. 会 場 ホテルセントヒル長崎 1 階出島の間

3. 参加者

○ IT 活用生産性向上好事例発表企業

・長建工業株式会社 代表取締役 古谷 和行 様

・オフィスメーション株式会社 ソリューション事業本部
製造システムソリューション部長 様

○ファシリテーター（取りまとめ役）

長崎県工業技術センター 基盤技術部長 藤本 和貴 様

○意見交換については全体聴講者からの質疑応答・意見交換とした

聴講者 25社 32名

4. IT を活用した生産性向上の取組みを実施する企業の事例発表

事例発表テーマ「IT を活用した生産性向上と業務の効率化について」 長建工業株式会社 代表取締役 古谷 和行 様

①会社概要

②これまでの業務の流れと問題点

- ・売掛、買掛とも担当者毎にそれぞれ Excel 若しくは自作の ACCESS による入力管理
- ・担当者毎に紙ベースで管理していたため、チーム組織としての共有が乏しかった。
- ・業務内容・状況（売上、進捗、分納状況など）の把握が困難。
- ・原価管理がうまく出来ない。
- ・自社システムの作成者が退職しメンテナンスの改修が出来ない。
- ・部門毎のしくみで管理を行っていたため、情報を把握するのに時間もかかり、統一するのもパワーが必要。

③ IT 活用により改善したこと

- ・発注品の入荷状況、出荷処理に連動し売上げ一覧に反映させることで売掛残のチェ

ックなど得意先毎に把握、経理サイドも閲覧可能となった。

・全てがデータベース化され、一覧表、順位表、原価実績表など一元化できた。

④今後の改善課題と展望

・カスタマイズしてきた新システムのマニュアルを作成し、業務の効率化ができるよう社内での勉強会を行う。

・タイムリーな数字を業務・経営に活かすこと。

・オリジナルIoTの構築

・働き方改革への対応



事例発表テーマ「中小企業・製造業向け生産管理システムについて」
オフィスメーション株式会社 ソリューション事業本部
製造システムソリューション部長 様

①会社概要

②長崎県産業労働部、長崎県工業連合会との連携

ITを活用した産業競争力強化

③中小製造業の現状と問題点

・生産管理を自作したExcel、ACCESSなどで管理している。

・業務システムと生産管理システムが分断されている為、必要な情報が手渡しになっている。

・在庫が把握できずに、大幅な納期遅れが発生する恐れがある。

・加工方法や加工機の予定については、現場の職人に聞かないとわからない。

・システムを作成した担当者が退職し、システムのメンテナンスができない。

・システムが分断されているため、情報の二重入力を行っており、事務処理に負荷がかかる。

・データのリアルタイム性がない。

④ITシステム導入の効果

・データを一元管理することで、作業ミスが減り、二度手間が無くなり、スピードも速くなる。

- ・業務を標準化できる。
- ・経営判断のための情報を迅速に把握できる。
- ・目に見えないコストを削減できる。

⑤ I O Tの導入について

- ・見える化・あらゆるモノから収集したデータを統計的手法により分析し、数値やグラフによって傾向や状態を視覚化する。
- ・改善ポイントの把握効率の向上
- ・時間当たりの生産性の向上
- ・生産ライン停止時間削減
- ・原因分析、対策のスピードアップ
- ・改善活動の効果を把握し、意欲を向上させる。



5. 質疑・応答、意見交換では、次のような意見が聞かれました

- システムを導入した後はどのくらい期間または時間の短縮が出来たのか？
 - ・定量化した表現が難しいが、事務作業の不要なものを取り除いて短縮した。
- システムを導入する上で基本機能以外の機能など希望したものは？
 - ・入力者、確認者の権限を分けて社員の役割を設定した。また、各部門を一括連携できる様にした。
- 運用まで2年近くかかったとのことだが、現在の進捗は？
 - ・常に改善して行く事なのでゴールはない。
- 直接工、間接工から多能工への移行とは？
 - ・多能工化というのは課題でもあり、例えば切断、曲げ加工、組立溶接とそれぞれの作業しか出来ないと工程の山に対応できなかったのが、他の工程も出来る様にする事で対応できるということ。
- パソコン間のネットワークは異なる地域でも可能か？
 - ・N T Tのサービス VPN ワイド（光回線）を利用すれば可能。
- システムを使用しての端材の在庫管理の仕方は？
 - ・切ったモノを使えるかどうかは日報などにより寸法などの細かい情報まで入れるなどすれば可能かとは思いますが煩雑なシステムになると思う。

○IT、IoTの活用とは、自社ではこうやって活かすことができるということがあれば教えて欲しい。

・例として機械の稼働状況を測定できること。レーザー加工機などどのくらい稼働しているのか、なぜ止まっているのかなど、管理者が原因分析できる事など。

○働き方改革につながる事業内容の発表でもあったと感じた。機械でできることは機械にやらせて人間にしか出来ない部分に特化して行く。技能振興、技能向上にフォーカスすべき分野がはっきりするのではないかと思う。



6. 全体総括（座長まとめ等）

これまで取り組めなかった個別に分断化された情報を一元化することによって、業務を効率化して生産性を上げていく。今後人口が減少して行く中で、自動化出来るところは自動化して、技能を活かして行く時間を確保する為にもIT化、ICT化が必要である。また技能者、従事者も多能工化して行く事も重要であるのではないか。今回の事例・意見交換会を参考にいただき、今後の事業に活用していただきたい。